梅兒誓美

初編 上

へ 13
839
1

遠へ門
號 839
巻 1

明治三六年十月十八日購求

梅おくり美のく序

南枝の雪は積頃より一輪の花の花
の秋こそ顧ふ吉日乃き三鏡宝珠の惠を祈る春
はあらさの賣出しよ多願ふ女の門出より象星玉
女は利益ゆ成就祈願の名摺より天星玉女の
神德の恵方玄買を来そそぐめ持て八将

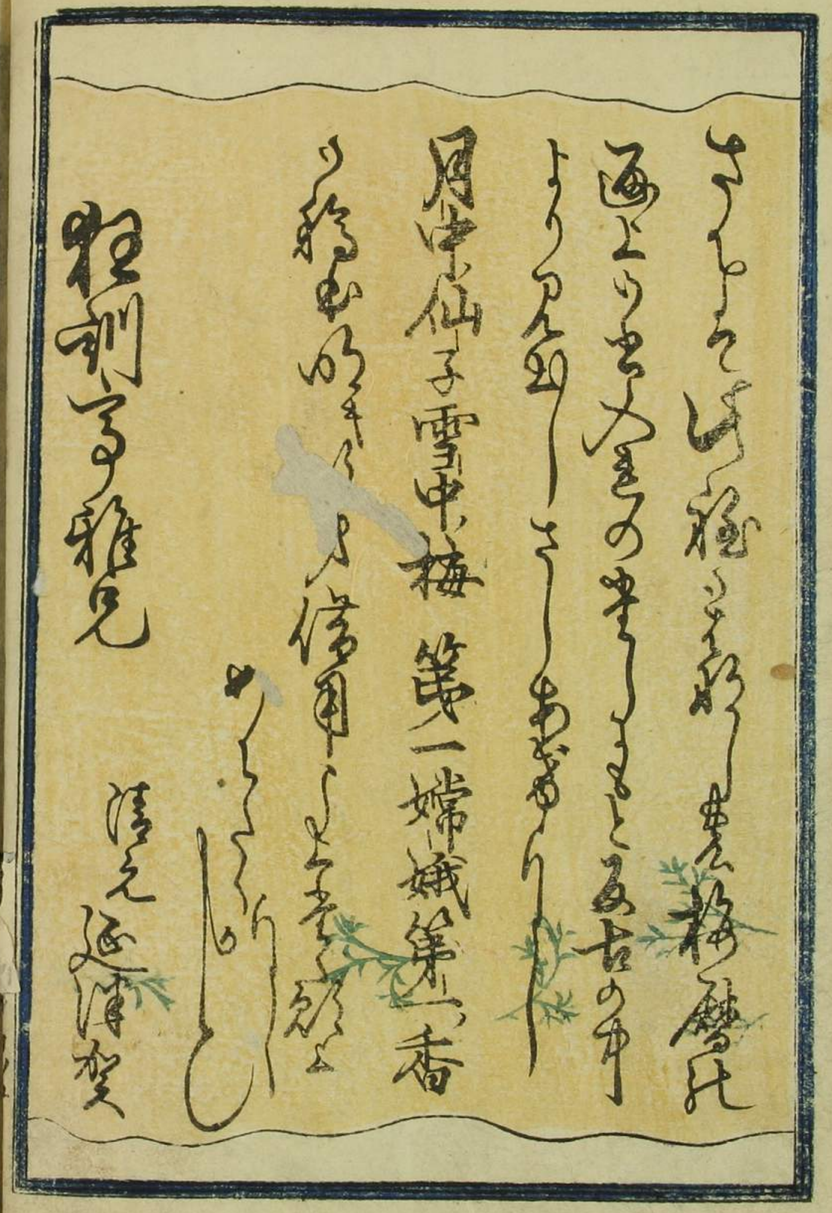
神の守護を祈るとて建てと仕て切形よく平を表
孔より四方に垂だうり除をひやのまて破を出免の
表帳附立直を定の當日に執とえんぎよ成納
米を南の有官まで八月の願主祈判満と則極元
藏八月ふ天恩月德四季の土用をいふも更春夏秋
冬に時おくりの注文に進捗とハチト慈門の十干十二支
立八公を拝をぐそん方直の出のるとに部叔の唱者〜諸君
遊行の間の日まを四方ぐ此冊子をそ拝びく梅ぐ香法
ふ法風独今年も ぐ法取立と願ふ門の十方ぐし
八方金神の中央に座〜ぐ扶この三四年の災厄や解
を出ぐ薄氷を踏四澤〜ぐ法るとふ時を忘ぐ花
の兄文永堂の引立柳川重信画の愛敬で何卒

このゝ神大當日あらうもよ梅の枝を月曜星法
尊命よ供一陽来福の吉書ちゞめ
干時天保壬辰年春正月は発行みとそ冬至の
宵よ墨ゝを硯ゝ けゝの筆を深
江戸前は市隠狂訓亭
為永春水主人

艶言歌く
浮海で交く甘ひを
うるで貞烈
真操
堅き誓ひも和く紀久之乱成
傑ー栄躰談子実ま山妓ハ
美女といふべー
鎌倉多津美の藝妓
譽祢八

美人
在南国
妻
與
年
同
艶
婦多川千葉の
傾町ふ住
通客藤兵衛

唐琴屋の養子
冊次郎
珍珠五価
五無取
月明勝雪
映接巻
八橋舍
唐琴屋の
虚女阿長



春色梅兒與美巻之一

江戸　狂訓亭主人作

第一齣

野に捨て芝に用ひられぬ仙花。そもそもなくふあ仙の霜除ゐどるる俺住居柾木の垣も風ふるる外は回物の清水に解あの童名借家も住べ都ゝまさるらん。実と宮の中の郷家もう所ゝ又云形中の世ごろ家業ろ第ゝ〳〵ふね新世帯主人年齢十八九人ふ

驚しうらねども。苦命なる人なりけん。貧苦不幸なり。
其うへふ此ごと病の亦ごとうつ〳〵不自由のうへ方も亦
家庭も亦の吉凶祥いとで生きけき形容男女まこぐ
どうとち顔独りびしきの戸口女「すこし出見るさん
まし〳〵」「アイ」女「そこいへおまのハ男且おさんと
いひつあけうまさえ。ゆうし茂居ゆうくとあけて
久延其安上田大蔵の前の猫の猫の小柳ゆ小まの変
中西ゴロの猫酒を鍋ゆ〳〵ゆ男ハお納戸の中敷
猫ゆん。おとそ改巾をうのよ猫くこぐ見し〳〵の猫の田
猫まま顔自傍ゆ猫紀の居ゆつくろいねども美しき。
猫の変形ゆ猫の関元真〳〵ハびっくり思うちるゴあ
主「米ハどやア」ねへゴ〳〵ゆ〳〵て来こそ〳〵て張まて居る氏
ゴ「ゴ紀まるとゆもうぎるエ。ア〳〵くこちら〳〵美ゴやア見
ウト「おうゆ」「コとちきゆやア宮。貧乏ゆ人ゴ見門で猫
ぐごきくし〳〵そ〳〵そのゆ人ゴひぐ歩ゆくゆんごゴ
ア苦〳〵ト猫を猫ゴひっつくとゴ〳〵ゴ〳〵ゴ〳〵ゴ〳〵

ぼけてくわくさうしやるのくトうをつくづくと宮さまをあれくみて
ゐるのこゑまたこゝハまを者ごヨ。わの時からゝこゝろいのごくハ
十八六月廿ゝヨ大遠ゐることでもねくゞ。どうも氣ごゝ内で
なゝねくこそ其ハいくゞ五人ゝ。どゝーて新門て来たのゞ。
閑そくとるゝんとあゝトすてゝるゝゞよね「ナニ今教ハ妙見さま
へまゐゝまゐ来たうめゝまで宅ハ出ずゝしヨ宮さまゝゞる
とゝさねくおあの拍ゞ付居るわゝ山王宅とゝくこゝハ。ゐゝこ
美ゝゐも知らるんゞゞ子。片頂月ゝ人ゝ来て居るきてドウ

とのが遊びやちくどのうちと
いとやくしゝこゝろうり あるとまちうね。その子の宅を聞き
まゝ。本所の方ゞといひまゝ。そまろ〳〵尋ねゝ
ることを聞く。探して居ると。其の子が宅の主人の地を
するゆゝ。どうもたゝう〳〵の探るがあまへさんの探るのよう
だう〳〵。其晩一所ゝ寝ろしてよく〳〵聞くと宅の主
氣ゝ美しゝ。お内ゝ山が居ると言ます〳〵〳〵まゝ。
遠ち〳〵と男門く嘴ゝ。ますく聞くれバ。あまへさんの主
ようおく〳〵さんの方が年〳〵人のようゞといひます。

おくゝさ〳〵とよして宅ゝ居るれとのゝ。聞べきく
わどうさんゞうあまさるのようゝ。持ゝ。もうゝどうも氣
が濁れゝ。其ゝ。ますく〳〵私の聞ることを聞して
遂て。今月の終まうゝ。うんでも易ねようと思ひ。
十四月を知ゝまゝ。ますくまさんであるゝまゝ。
頃の金力とゝいのゝ。風とゝ〳〵ゝおまさんの主人
家が知ゝるとのゝ。妙見さゝのおゝゞゞ。婦ゝの体で
氣ゞゝるゝ。おくゝさんゞあるゝの潟今月ゝゞゝ人

お世辞のつく　主「さうまゝねえどうして女房がどうする
ものゝそしてそれ其子は何の娘ごらく　「るんざろ屋もハ
八百屋ごとのひやゝ　ちょそちやアアいくじやアあるまい
せんろ。ちまたんアそまそうろ。今ごやアア私のこるんざろ
四ひやゝもちてハあるさるさいそしてばふまものと
お内儀のこをうくさ　主「ものゝ　じやアあるませんな　主「ものゝ
酒もぞもやアねえ　ごやアあるませんな　主「ものゝ
其子のゝ　ごらも。ごらざろ知をもちねえアそろそろ

そふと宅いうのすくとよくゝ　「宅のようなゝ大変サ鬼
長勝どんの気じやア。皆ふ具根さんとのうまてえ知れど
居やしのサ。そまごゝ　主「ゝ少内宮の主世る時きえあの
主ろうの屋敷ごものを。どふしてそんのゝ根ふいきます
ものゝそまを何の角のと言ゝ三月ふあげど　内儀ハ
のあゝ絵をアちまはんハ私も金辞ちまさんの書をゝ
ゝしてこそそゝ。ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
居やしゝこそまごゝ。ものゝ三郎ゝ居ろごゝ。

みるうちに出をぬけと。今日やどやの亭主が勝手に居さうれど。おまさんの宅へ初めてるし。そしてマアトあうをかくしてやうのをかそら出招きたるるの形見ふるうくあさろーやうのをかそぜんしてあたとの宅み居さ見ものの。私さもそ今日敵ろうと来ふ位ひをねぐろく。婦夫川くでもりて亭主しておまさんのよこをかーも楽ふさせやてくまエトちんどう八十文の品　一つ主をして書みれりしうされ宅ハ男八おろうきものである

ちんぐ天ー　三沢ぐ金より代ぐたくるくるうるのであり

まー　三月バサ。今さら考うくれるまやア。出門ちろ愛美ぐ先の唐沢の招えくとる月と今ちくあうふ戸を塞ち上を沢初でおまを忘ぼ子そ　みてハ嬉ちくれ。這入ちくれ月バ借金の山も縁つくくうそしてくれ男門ち更ふ家えいも。判をおさもと百文の金も書ふへいまれ。ー。夜ぞまろう宅へ出入もるくれ。音信ふ通とされこのハまんる此方がふつくう西系まうこうあう人ふ書ち先の月上ハうんさんしてまぐ後男ちハこまてあるを言て番

[illegible]松兵衛が角山さるくに出てゆるす文百両、[illegible]文
[illegible]兵衛がその代[illegible]数千[illegible]八郎兵
十両。[illegible]外の者へつかはし[illegible]長男は上方へ
[illegible]登るとのつくり[illegible]二番[illegible]久しとこゝ[illegible]者が
信切よ。[illegible]ふ[illegible]若代[illegible]ぎ[illegible]ゆく[illegible]海[illegible]金[illegible]
ハ下げつかはせば先[illegible]くれ[illegible]えあはせつかはられ[illegible]
月の出[illegible]入出[illegible]のそこ[illegible]ーり[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]文百両[illegible]ゆる夏井共沢[illegible]

さーあげ[illegible]る文百[illegible]さー[illegible]ゆつ[illegible]の両ハ早速[illegible]
上納いせといれてびつくり[illegible]
[illegible]久八が宅へ沿[illegible]人前[illegible]ぎ[illegible]厳の五[illegible]
立[illegible]ずみ[illegible]ずつ夏井の家[illegible]教とあ[illegible]
[illegible]せる[illegible]ぬ[illegible]入の金[illegible]松兵[illegible]ゆ[illegible]当主人丹
[illegible]平[illegible]の[illegible]大[illegible]ぎ[illegible]。[illegible]久八[illegible]ひ[illegible]。
[illegible]ぶ[illegible]く世[illegible]の[illegible]松兵[illegible]ハ[illegible]
[illegible]久八が[illegible]する[illegible]ぎ[illegible]の[illegible]

ふやしの話をきてゝやァねへろ。「さて不圖も人中ハ
ねへ。そして、ごぜぶ、おまそんの上病気の世話をまつゝ
主「十二世話といふく居ぶく世話のあてもなれへが、もし屋の
前やまゝとおもふ世話ゝるのハ人うまるのゝ久ハとゆ
ひと。人のゝゝさんの妙ゞ女製結をして此ゝ世ゝ居ろゝ。
そもぶ時ゝ来ていの。の一ゝ、ゝしてくまるのサ「そまへ。
其女中と人主「女ゝゝもゝとハ何のことゝ「ゝんても
ゝのゝゝ。ゝゝ気ゝゝゝゝねへ主「ゝゝんゝゝ気ゝゝ海
法ゞやァゝゝゝゝとゝゝ居ても、ゝゝゝ実不如細イヨト
「ゝゝ良ゝゝゝ悪ゝゝのゝとゝゝ言ゝゝ
ゝぶゝゝ。ゝゝ斬ゝて、ゝゝ家ゝ、ゝゝるゝゝゝぶんゝゝゝ
ゝても私ゞ男のゝゝぶゝゝけハゝまゝんゝ不自ハゝ
やァゝませんゝゝ。気を病ゝと持て早く結ゝく
おゝゝるさんゝ。こんる淋しゝの所ゝ夜も独ぐゝアさぞゝ
をそひけて独をおて。昔とゝゝゝゝ遠ゝゝゝ。暗ゝゝゝ
世ぞゝ。たゝゝ内泡ハ鬼も角も大所ゝ世のゝゝ

ぶらぶらとそばのもの花の見くらべ　其人が三度まで
ゑ
初のをなくなくでくるさるかの人てさまざま和らく愛嬌
ひ。居おのおのくるる男の心物まて女の心ハ千万無量
のあの案ずるよそ目の初見ぬ歌きるり男ハるこを
ふれるぶら　主「何サおのらハ斯てて人ふ遠ゑをして
居る男ぶんぶらふ男ゆき、ゆもあるこがねくどくも
自ゆふるるるねく男のうくぶらふ　「サアそまこぶらふ
モウこをなりくもやせんヨ　主「そんなるを言ハ

ねくでどうゆうこを人をくくんるそしてモウおそと
なるぶらくいくく、ね「ナニ今初ハおそくるる用知を
おて来ますくヨ奥さ　ハ「おちくぎれとりのハさくるるの
宅けやのあるあのおのくんを
そのの人のおやくの
ときすのくく変　然さんの手紙まるのまくくくる事
までこぶぶくくれてゆるうつもるでねくくくる今日
ふ人をくるんでゆまびよのヨそしてて親青さんと清ふ
さんへおを百度をて帰るつもるまぶらふ。陽ぶどゆまぶ
ゆまるこをびありてもいくくくくてありまたヨヤ分

一つもるひわくトいのまづくちをさび茶を煎て
上ようぶの玄能ぶ立　主「その火鉢の根こあるヨトのまづくとと
のこりを生の妻もその手のうくこあるぶらく　よれ「ぶ
ヨヤ口のうけと玉びんくトおのぶこちひぶやこうる
おくこだお医者さんハ何のぶく　主「ナニそれもお湯さんが
世話をしてとそし　このぶ　よれ「おそるさんとハエ　主「のま
たるしと久八のうとさんの妹よおること同見のまの言
たうとさいこハそのエこいらく。それハいぶおのくの玉を

新のく居ハ口ろまいのハ　よれ「ナ世ハうんぶうまが有
きやうたるせんハま。そしてハ　主「ふくあ
たハ　ぶ　何のおぶきハが　、　熱てくそてこうのぶ。
ぶ久人復ぶ屋うこらうぶ。ふくふうぶ　ふくふるもうこ歌
せうのもわく金のうぶ遠いうくこあるよれ「ど二形ちも
手別まで八婚礼ぶうくこうどこで仏も食ら玉ちあんが。
おまのまんこ仏のぶおのしひ物でもくぶさくくひふ形きぶ
うんぶ植て上くこヨ　勘　ちくこ居る中仏ぶ用を思ひ

よね八

円次郎

ざ　ど　ら　ん　ま　ア　こ　ま　で　の　ど
ず　て　ば　ぜ　な　ね　ト　い　ひ　ま　ぐ　ら　ら　ら　ら　れ　よ　う　の
ま　ア　こ　ま　で　の　ど
ず　ー　り　の　を　の　ど　ー　く
ま　ア　ま　ま　り　の　を　賞　く　ま　く。そ　て　み　る　る　あ　を　ち　を
た　ぐ　く　お　ん　る　さ　ん　よ　ま　今　お　ん　ま　ん　の　お　ま　り　で　あ　る。
も　ま　ま　ん　ま　ま　ま

[illegible]

主「[illegible]」

主「[illegible]」

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けつこ　主丹ばくハ　丹「米八その葉を茎へつのぐくんる。
物ぐどきくするるる　よね「八さーぐで。よね「ヲやそふろくぐ
ねトびつくるーて葉を抜る　丹「何サ何でもねくがト
ふとり　よね「ゴるとゆ茎を考こねくト　丹「そるまやそふ
ヒヲノお長ハどふーこのふ　よね「お長さんるエおのるを宮ヨ
苦労考のそョ。そまふ鬼ふ、とんぶ。何ろおーらーいそぐ
ろ。猫ぶづひーてあるをろ。ばサ。強ぶるもちきも側でふを
分くみやたけまども何をいふるもおまくむんのことをかハ

うんつく居る　ものごろ〳〵実ふ考みろふ
ごぎ　ばやきるる　丹「そふサあまも　初年ホーろ〳〵あのようみて育
今さろ〳〵ろひそふぐョト　よね「さよふサる。おきる別深
ハ猫別るるくそふぐろ〳〵。ばでございやたけョト　丹「何
さ別ようハらくとふのでハねくふる。マアろ見そふぐとふ
ことョ　よね「そまぐろ〳〵無理ぐとハ言やアきるせんハよト　すて
をあぐてるまき　丹「すねけめくを　ぐふ猫ア　ろろ〳〵何でもばれ
するもるる　よね「きるふサれアろ抜サ。お長さんとふ宮ヨ
ヒアきれく、

いくらぶけのあるおまへさんこそこんなふ苦労するこゝろ夜
の内留りであるまうのサ　丹「よくいろ〳〵なことをいよるそん
なびどうでも勝負に成ろと思ひます　よね「ヤあなたハ後生で
者門さのうへ　丹「猫を　こうてもこてねへでも。お猫ておくぶい
よね「そまでこりてもアサ　おまえんがお長さんのことをうるさく
こおいこまごろ〳〵イそよいろ〳〵とあつまきさるる　丹「サあのう
ぶそふいふまつうるこうでハねへうるふそふごと言〳〵さんど
よね「ヤうるさいもうるさのう〳〵のもうるさいそふぶも同じこまぶ

おるまませんうへ。そんなうこ私ゲうるまいう〳〵。嬶共〳〵たち
んるさいナ　丹「ぶでもいう〳〵るトいうまそうこまをみー男
さまそうと　よね「アサあんこまよまあのそぶ
なるぶぶ。機嫌をまをしておるまいう〳〵。どうぶ嬶共
おるまるさのうトおろくする丹ぶば　丹「そん
なう〳〵嬶共するぶ宮おそくるぶこうう。おまぶこと紙
安事ぶ。宅へうへ者ふるふ勧めるヨト
ことぶふおれのつまいうぶるこぶ
うるう〳〵るうこう嬶きハるまこぶ
ぶ。そんるふ世さ〳〵〳〵こうまいさう〳〵やうこと。猫のこと

解るのぢやふりまさう度まで。どんなことぢあつて。
て。こまるんを出して。おくんなさいまセ。丹「イヤ。ぐわつ
ぬ。よね「こちきやアそれぢろう。第一らまてるるいヨ。
斯して居さつてもどうぞ。特別に私のことを思ひ出して
おくんなさいヨト あぎりうきたまへ
「こまるとわるとを思ひ出さいとかな。高尾が金言
なぶつ。五ふ思ひおもうく。深き中ひどう。智ふるる。
すと
おしてそうまてきたとき。やあ。あなたをうとらるく。

とあくんうと。幾度ろ思ひ出しても。恋の癖。甚ふ
るくわるくく。他員ふ人とふいのぶしく。阿房ピ
ても。こ。案らしく。実ふ。こうぢ。ぢまて。紅
らわ人といつべ。
丹「おのれ。出て。所ろ。こまて。ろ。問ぐあるあろ。よね「そまでも
ろ。お長さんのことを思ひ出して。ちやアぢやアヨト 丹「だろ
だろう。言てあげとも。解ろう。度を。ろる。よね「イヤのぢくぐ
あるとかたのうこ。物を。増殖だろうぢふ。そまでやア。家

なども用ハあるまじき事なれども人。ノノ子ハ[illegible]ぶやうなる事なるまでの不自
由なるものゞあるゆゑ[illegible]ゞ[illegible]ゞして彼をよとしてもお[illegible]きさへ。
是非こちらきやア伯父人すなる[illegible]ゞ[illegible]。そのゆゑをきくとゞみ
でも[illegible]ゆゑ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ

[illegible]

よれ「いつまで居ても限りのハねくうろ。ゆへ[illegible]

きつく仕まうト あぐり口おりてきたるめを丹「アコウ 茅八

よれ 丹「ろふつまぶ開ぐあるゆうぐごうけ。イやらくいたの者で

いきョ よれ「アイ ちんろうト ろぐりあげおりぐゆくうろ 丹「ろ

ろんちゃあんろふ芳房さまのも。何の用ぐごうト。

ろぐ ろくくさぐめくくト ちんの上ホイとまハ者ろ

ゆをコトまとそ切ぐ。ろぐごうふすぐ毒ふいくあく

[illegible]

丹「いまおのれもそう思うてまごついて居る所を落して」

丹「いまおのれもそう思うてまごついて居る所を

だと[illegible]を行ふまでいつて」

「るんぢゃ武者舞のようなを

ふまで仕こんだと行そして[illegible]

ぞも」丹「いくらだとどしてしこと」

「やっぱり渡り[illegible]

[illegible]ものを」丹「そんなるいうう[illegible]

[illegible]」「[illegible]実ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]